

## ちょっとめんどくさがりな私の話

まきの かつみ  
牧野 勝己

はままつ にほんごがくいん にほんごきょうしゅうせいこうざ  
(浜松日本語学院日本語教師養成講座)

そうちょう じ ぶん め ぎ どけい と みみ す あめ おと き  
早朝4時40分、目覚まし時計のアラームを止め、耳を澄ます。雨の音は聞こえない。カーテンの隙間から外を見る。やはり雨は降っていない。仕方なくベッドから降りトイレへ向かい用を足しながらまた耳を澄ます。雨の音は聞こえない。何をしても長続きしないタイプの人間だった。電気主任技術者の資格を取ろうと高い金を出してテキストを買ったまでは良かったがページをめくった途端、やる気がなくなってしまう。品質管理検定もそう。ほかにもそんなことはいくらかでもあったし、そもそも生きる糧であるはずの仕事すら長続きせず何度も転職した俺なのだ。それがなぜ朝のジョギングなんてものに手を出してしまったのだろうか。いったい俺は何を考えているのだ。

おもて で あめ ふ はし やす たいぎめいぶん  
表へ出る。雨は降っていない。つまり走るのを休む大義名分はない。そして寒い。アップルウォッチをセットし走り出すそれでもまだ走らなくても済む理由を探している。そんなに嫌なら走るのをやめればいいのになぜ走るのだろうか。

ぜんはん ゆる くだ ざか しぜん ちょうし  
コースの前半は緩い下り坂。自然とペースができ、いい調子だ。それにしても風が冷たい。冬ってスペイン語でなんて言うんだっただかなあ。ああ、インビエルノかあ。来年はいよいよ定年だが退職金はいくらくれるのかなあ。中途入

社<sup>しゃ</sup>だし大<sup>たい</sup>した額<sup>がく</sup>にはならないだろうなあ。

5キロ地点<sup>ちてんつうか</sup>通過。さすがに少し<sup>すこ</sup>疲<sup>つか</sup>れてきた。息<sup>いき</sup>も少し<sup>すこ</sup>苦<sup>くる</sup>しい。なのに、これか  
ら長い<sup>なが</sup>上<sup>のぼ</sup>り坂<sup>ざか</sup>だ。これまで下<sup>くだ</sup>りで楽<sup>らく</sup>だったが、楽<sup>らく</sup>をすると必<sup>かなら</sup>ず苦<sup>く</sup>が待<sup>ま</sup>っている。  
若い頃<sup>わか</sup>の自分<sup>ころ</sup>は楽<sup>じぶん</sup>な道<sup>らく</sup>ばかり選<sup>みち</sup>んできた。しかし今<sup>いま</sup>の俺<sup>おれ</sup>はどうだ。スペイン語<sup>ご</sup>の  
勉強<sup>べんきょう</sup>、日本語<sup>にほんご</sup>の勉強<sup>べんきょう</sup>、そしてこの朝<sup>あさ</sup>ランと挫<sup>ざせつ</sup>折<sup>せつ</sup>せずに継<sup>けいぞく</sup>続<sup>ぞく</sup>することができてい  
る。俺<sup>おれ</sup>は過<sup>か</sup>去<sup>こ</sup>の自分<sup>じぶん</sup>が大<sup>だい</sup>嫌<sup>きら</sup>いだ。努<sup>どりよく</sup>力<sup>りき</sup>することを回<sup>かいひ</sup>避<sup>ひ</sup>し、周<sup>しゅうい</sup>圍<sup>い</sup>に、そして自分<sup>じぶん</sup>  
に言<sup>い</sup>い訳<sup>やく</sup>ばかりしてきた。クズ野<sup>やろう</sup>郎<sup>らう</sup>め、ああ辛<sup>つら</sup>い、苦<sup>くる</sup>しい、畜<sup>ちくしやう</sup>生<sup>せい</sup>……。体<sup>からだ</sup>を前<sup>ぜん</sup>傾<sup>けい</sup>  
させ必<sup>ひつし</sup>死<sup>し</sup>に足<sup>あし</sup>を前<sup>まえ</sup>に送<sup>おく</sup>る。やめたい、止<sup>と</sup>まりたい、いやだ、俺<sup>おれ</sup>はもうダメ人<sup>にんげん</sup>間<sup>かん</sup>じ  
ゃない。やると決<sup>き</sup>めたことはやるんだ。江<sup>え</sup>戸<sup>ど</sup>の敵<sup>てき</sup>を長<sup>なが</sup>崎<sup>さき</sup>で、じゃないが、昔<sup>むかし</sup>  
自分<sup>じぶん</sup>を今<sup>いま</sup>討<sup>う</sup>つんだ。何<sup>なんねん</sup>年<sup>ねん</sup>越<sup>ご</sup>しの恨<sup>うら</sup>みなんだろう。その執<sup>しゅうねんぶか</sup>念<sup>ねん</sup>深<sup>ふか</sup>さにびっくりだ。  
東<sup>ひがし</sup>の空<sup>そら</sup>が明<sup>あか</sup>るくなる。俺<sup>おれ</sup>の夜<sup>よ</sup>明<sup>あ</sup>けも近<sup>ちか</sup>いかも。

(875字)

(2022.6 たどくのひろば掲載)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この  
作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use  
this work, please indicate the source as in the example above.